

伝え合う中で、考えや表現をつくり上げる

ことを目指して

～P21「中学校外国語科授業力向上プロジェクト」の実践より～

学習指導要領では、実際に英語を使い、話したり、書いたりする活動（＝言語活動）を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成が目標として設定されています。そのため、言語活動の充実と言語活動を通じた指導の充実が重要となります。そして、それらの実践とともに生徒の主体性や学びを調整する力をはぐくむことが重要と考え、研究を進めました。

1 言語活動の充実と言語活動を通じた指導の充実に向けて

つながりのある指導計画

言語活動の充実を図るために、単元末の言語活動へとつながる学習活動を授業（3、5、7、9～10時）に設定しました。

そして、言語活動を通じた指導の充実を図るために、よいモデルとなる生徒の発言や教科書本文を活用し、内容面や文章構成に関わる指導を大切にしました。また、授業者の指導の充実に向け、単元末の言語活動における具体的なモデル文（評価基準）を作成しました。

時	ねらい
1	■教師の家族または友人の紹介を聞いて単元ゴールのイメージを持ち、自分の発表に向けて目標を設定できる。
2	■本文から三人称単数現在形が使われる場面やきまりを理解できる。
3	■三人称単数現在形の特徴やきまりへの理解を深め、身近な人物について伝えることができる。
4	■本文を読み、三人称単数現在形の疑問文の使われ方やきまりを理解できる。
5	■三人称単数現在形の疑問文の特徴や決まりへの理解を深め、人物について質問したり、答えたりできる。
6	■本文を読み、三人称単数現在形の否定文の使われ方やきまりを理解できる。
7	■三人称単数現在形の否定文の特徴やきまりへの理解を深め、紹介する友人の家での過ごし方について話すことができる。
8	■今までに読んだ本文の内容について振り返り、おおまかな内容を説明することができる。
9	■登場人物の友人紹介を参考に、自分の家族または友人についての紹介を作成することができる。
10	■どのように紹介すれば、紹介する家族または友人の内面やよさが聞き手に伝わるかを考えることができる。
11	■ALTに自分のことをくわしく知ってもらうため、自分の家族または友人について紹介することができる。

①「語句や文法を言語活動の中で繰り返し使いながら習得する」、②「子どもが授業ごとの言語活動を通して単元末の言語活動につながる考えや表現をつくり上げる」指導計画が求められています。

例 おおね満足できる状況 (B)
I like my brother.
He is Kai.
He likes running.
He is a member of the track and field club.
※人物を紹介する内容となっている。

例 十分満足できる状況 (A)
He is very active.
He is good at running long distance.
I also like running.
I want to run like him.
※Bに加え、自分との共通点や自分の気持ちを伝える内容となっている。

Small Talk ～導入場面と展開場面のつながりを生むために～

子どもに自身の思考の変容を感じさせるためには、それぞれの学習活動につながるを持たせることが大切です。導入場面で設定したSmall Talkという学習活動で生徒が考えた内容をもとに授業を展開していくことで、伝える内容が深まりました。

導入 Small Talkで生徒が考えた説明文を板書したものです。既習事項を使い、道具の説明をしています。

展開 仮定法の学習後、再度、Small Talkに付け加える文章を考えました。仮定法を用いて道具を使って「できること」や「すること」を付け加え、自分の考えや思いを含む文章となりました。

正確性も大切に指導します。

言語活動では、子どもの表現の幅を広げる指導や英文の正確性を大切にしたい指導をします。言語活動を充実させるためには、「何のために伝えるのか」という「目的」が重要です。そのため、言語活動に明確な「目的」を設定することを大切にしてください。

Picture Description～表現力を高めるために～

英文を考える手掛かりとなる単語も提示しています。

New Year/fish

Is it Kamaboko?

We eat it at New Year.
It is made from fish.
We eat it with udon.

提示された画像について3文程度の英文を使ってペアで伝え合う活動です。習得させたい文法や語句などを意図的に使わせるねらいがあります。子どもから出たよい表現を共有し合いました。

伝えたいことを聞き手に伝えるには、どのような表現を用いればよいかを考えさせることも言語活動を通じた指導の大切なポイントです。

2 主体性や学びを調整する力をはぐくむための工夫

振り返りシートを用いて

子どもの学習状況を把握するだけでなく、次時の導入場面で、「振り返りシート」をもとに、多くの生徒が気付いていなかった観点を紹介し、より深い学びとなるようにつなげました。

ふりかえり
①「too形容詞 to 動詞」のポイントは何？（意味？場面？用法？）

too形容詞 to 動詞で否定の意味があり、notはなくても「できない」になる。

ふりかえり
①「too形容詞 to 動詞」のポイントは何？（意味？場面？用法？）

たまたまに遊んでたかそこを本気で走った時などある時だけ使う。
「〜程度までできない」の形に似るがtoo形容詞 to 動詞の順で文を作る。

子どもの学習状況を適切に把握するためには、「振り返りからどのようなことを把握したいのか」という具体的なねらいを持つことが大切です。

振り返りの質を高めるために、以下の視点を示しました。
ア「文法のルールや意味について理解したこと」
イ「使用できる場面や目的として考えたこと」

ICT活用～自ら学びを進めるために～

文章を入力すると読み上げてくれる無料の音声読み上げソフトを使い、発音練習に取り組みました。繰り返し音声を聞き、粘り強く発音練習に取り組む姿が見られました。



タブレットの音声に耳をかたむけ、聞き取っている様子

子どもが自ら学びを進めることのできる力をはぐくむためには、授業者が学び方を提示し、子どもが選択する機会を与えることが重要です。ICTのよさを生かし、効果的に活用することで子どもの状況に応じた学びにつながります。

プロジェクトを通して

単元構想に基づく目標や評価規準の設定・共有を行い、振り返りを生かした授業改善と言語活動の充実を進め、子どもの反応等から研究員の先生方と授業について考えることを大切にしました。授業者が単元構想を持ち、子どもの実態に応じた授業づくりを進めることの重要性を改めて実感しています。今後も言語活動を充実させながら、よりよい授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。（アドバイザー）

綾部市立西八田小学校の実践

令和7年度京都府小学校教育研究会外国語教育研究大会研究発表校です。全ての言語活動に明確な目的を設定し、単元のゴール活動につながる単元構想をはじめ、1時間の授業の中に「個別最適な学び」と「協働的な学び」となる学習活動を効果的に位置付け、子どもの考えを深める授業づくりをされています。指導案をご覧ください、授業づくりの参考にしてください。

